

平成 28 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、各教育部門における系統性のある教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。	①児童・生徒のキャリア発達に即した指導内容を精選し、自立と社会参加をめざす教育課程の組織的な体系化を図る。 ②授業改善に向け、校内の教材・教具、指導案に関する情報が共有、活用できるように整備する。	①「小田原養護学校の児童・生徒のめざす将来像」の系統性を示す表を活用し、校内研究を通して、キャリア発達に即した小・中・高のつながりのある指導内容の見直し・精選・焦点化を図る。 ②校内の教材・教具・指導案に関する情報を整理し、共有、活用できるシステムの見直しを行う。	①「小田原養護学校の児童・生徒のめざす将来像」の系統性を示す表を活用した指導内容の見直し・精選・焦点化ができたか。 ②校内の教材・教具・指導案に関する情報を共有、活用しやすくなったか。					
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりの実態やニーズに応じた指導・支援を充実させる。	①専門職等との連携を強化しチームとしての指導・支援の充実を図る。 ②個別教育計画に組織的に関わるシステムを構築する。	①アセスメントやケース会をはじめ、日常的に専門職等と関わり、チームとして指導・支援にあたる。 ②専門職等との連携、日頃の指導への活用等を含め、個別教育計画の様式や運用の見直し・改善を行う。	①アセスメントや相談で、専門職等と関わった指導・支援の内容について個別教育計画に記載されているか。 ②個別教育計画の様式や運用の見直し・改善ができたか。					
3 進路指導・支援	将来の一人ひとりの生活の充実をめざし、卒業後の進路を視野に入れ、障害の特性や発達段階に応じた進路指導・支援を行う。	①卒業後の生活を見据え、進路学習・作業学習など、発達段階に応じた学習内容を充実する。 ②福祉制度や地域の情報を計画的に保護者に提供し、理解啓発を図る。	①卒業後の生活を見据え、児童・生徒の実態に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた指導を行う。 ②保護者に向け、計画的な進路説明会・福祉サービスなどの情報の提供を行う。	①児童・生徒の実態に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得に重点を置いた指導ができたか。 ②計画的な情報の提供ができたか。					
4 地域等との協働	他者を尊重し、多様性を認め合う共生社会の実現に向け、障害のある児童・生徒の理解啓発を図るため、地域への発信や、地域と連携した教育活動を充実させる。	①地域の学校や関係諸機関と連携を図り、センター的機能の充実を図る。 ②地域に向けた研修の開催や、地域と連携した教育活動に取り組む。	①インクルーシブ教育実践推進校・クリエイティブスクールとの連携・支援を推進する。交流学習を計画的・組織的に進め、相互理解を図る。 ②地域に向けた研修会等を実施する。学校の取り組みを学校ホームページに掲載し、教育活動の情報を発信する。	①インクルーシブ教育実践推進校・クリエイティブスクールとの連携・支援が計画的に進められたか。交流学習が計画的に進められたか。 ②地域に向けた研修会が実施できたか。最新の情報を掲載できたか。					
5 学校管理 学校運営	児童・生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備を推進する。不祥事防止に努め、良質の同僚性を構築し、教職員の人格的資質・専門性の向上を図る。	①児童・生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備を推進する。 ②各種マニュアル等の活用と検証を行い、必要があるものについては改定する。不祥事防止に努める。	①感染症、食中毒、異物混入、アレルギーによる事故等を未然に防ぐための、「予防的な取り組み」を推進する。 ②緊急対応、捜索対応等の対応が速やかにできるよう、マニュアルの改善・周知と各種訓練を実施する。毎月不祥事防止チェックシートによる個人点検を行う。	①保健室や学校栄養職員等との情報交換を密に行い、学部と連携しながら各指導等を徹底できたか。 ②緊急対応マニュアル、捜索マニュアルなどを有効活用して、非常時においても児童・生徒の安全を確保できる体制を作れたか。毎月チェックシートでの点検を行い、不祥事を防止できたか。					